

第4章 台東区の年間入込観光客数の推計

1. 年間観光客数

(1) 文化観光施設入場者数は企画展の人気に左右される。

No	地区	観光施設名	区分	平成16年	平成18年	平成20年	平成22年
1	上野（上野公園）	東京国立博物館	国	1,202,496	1,729,463	2,212,967	1,533,563
2	上野（上野公園）	国立科学博物館	国	961,646	1,515,535	1,474,033	2,430,343
3	上野（上野公園）	国立西洋美術館	国	493,192	676,468	1,024,869	735,510
4	上野（上野公園）	東京都美術館	都	3,104,905	2,843,037	2,806,772	735,575
5	上野（上野公園）	旧東京音楽学校奏楽堂	区	31,791	27,685	39,425	22,757
6	上野（上野公園）	上野動物園	都	3,018,354	3,363,786	3,053,317	2,944,015
7	上野（上野公園）	上野の森美術館	民間	—	—	—	—
8	上野（上野公園）	黒田記念館	民間	—	—	—	—
9	上野（上野公園）	東京藝術大学美術館	国	—	—	184,374	536,563
10	上野（上野公園）	芸大奏楽堂	国	—	—	51,303	22,757
11	上野（上野公園）	国際子ども図書館	国	—	—	104,409	174,039
12	上野（上野公園）	東京文化会館	都	—	—	413,494	450,000
13	上野（上野公園）	日本芸術院	国	—	—	27,153	28,000
14	上野	下町風俗資料館	区	77,806	67,851	66,195	69,480
15	上野	付設展示場（吉田屋）	区	—	—	63,266	62,658
16	上野	世界の銀器館	民間	—	—	—	—
17	上野	鈴木演芸場	民間	123,764	—	—	—
18	上野	旧岩崎邸庭園	都	275,573	—	209,992	325,114
19	上野	横山大観記念館	民間	—	—	—	—
上野地区（小計）				9,625,193	10,554,536	12,239,211	10,600,554
20	浅草（浅草公園）	浅草演芸ホール	民間	—	—	—	—
21	浅草（浅草公園）	東洋館	民間	—	—	—	—
22	浅草（浅草公園）	江戸下町伝統工芸館	民間	—	—	—	—
23	浅草（浅草公園）	花やしき遊園地	民間	—	—	—	—
24	浅草（浅草公園）	木馬館／木馬亭	民間	—	—	—	—
25	浅草（浅草公園）	浅草公会堂	区	—	—	208,628	210,301
26	浅草	太鼓館	民間	—	—	—	—
27	浅草	テブコ浅草館	民間	—	—	—	—
28	浅草	池波正太郎記念文庫	区	46,881	44,888	49,322	63,890
29	浅草	象牙工芸館	民間	—	—	—	—
浅草地区（小計）				880,009	467,895	1,353,038	1,414,738
30	区内（谷中）	朝倉彫塑館	区	45,700	40,038	38,964	休館
31	区内（谷中）	大名時計博物館	区	6,437	5,580	4,690	5,000
32	区内（根岸）	ねぎし三平堂	民間	—	—	—	—
33	区内（根岸）	書道博物館	区	10,189	9,646	14,436	17,234
34	区内（根岸）	子規庵	民間	—	—	—	—
35	区内（根岸）	硯の資料館	民間	—	—	—	—
36	区内（根岸）	一葉記念館	区	23,908	20,098	24,353	23,583
37	区内（駒形）	エース世界のカバン館	民間	—	—	—	—
38	区内（橋場）	皮革産業資料館	民間	—	—	—	—
39	区内（花川戸）	かわとはきものギャラリー	民間	—	—	—	—
40	区内（柳橋）	日本文具資料館	民間	—	—	—	—
41	区内（浅草橋）	袋物参考館	民間	—	—	—	—
谷中など（小計）				86,234	143,056	92,299	69,275
台東区内施設合計							12,084,567

注1：民間施設においては、入館者数の表示を伏せてあるが加算集計している

注2：東京藝術大学美術館は今回調査で拡大集計した

注3：斜字は前回の調査からの推計値である。

(2) 歩行者カウント調査に基づく年間総入込数の推計

上野・浅草各地区で実施した歩行者カウント調査結果に基づいて、年間総入込数を推計する。

① 上野地区

上野地区については、上野駅公園口付近および上野公園袴腰広場を対象に、平成 22 年 3 月と 9 月の平休日各 1 日で実施した歩行者カウント調査結果から年間総入込数を推計する。推計には回帰モデルを用いる。

$$2.3522 \text{ (回帰モデルより)} \times 5,229,014 \text{ 人 (センターモール年間交通量)} - 15947 \\ = 1,228 \text{ 万 } 3,739 \text{ 人}$$

上野公園の入場に関しては、観光バスや乗用車を利用する場合は上野公園恩賜駐車場から直接入場する。年間車両駐車台数は 90,662 台（内、観光バスは約 20,000）で、年間の車両台数に、日本観光協会『全国観光客数統計』で示された車種別の平均乗車人数を乗じて、同駐車場を経由した総入込数を推計した。推計は 99 万 9,457 人である。

上野地区の総入込数に対する上野公園の入場者数割合について、来訪者調査結果を用いて推計した。文化・観光施設の入場に加えて、「散策」の実施率を「アメ横側」の回答数に 3.3 倍の「ウェイト」を付加して計算した。

集計結果では観光施設への入場と散策のいずれも実施しない来訪者は 9.2%、観光施設に入場せず、散策のみ実施した来訪者は 24.6% である。散策の大部分は、上野公園内で行われていると推測されるが、「アメ横」等の商店街で購買を伴わなかった来訪者も含まれていると考えられる為、上野駅公園口とアメ横上野口の歩行者交通量比率を用いて配分した。総入込数（100%）から、観光施設への入場と散策のいずれも実施しない来訪者割合（9.2%）に加え、散策のみを行った来訪者（24.6%）のうち 43.4%（アメ横上野口の歩行者比率）が上野公園を散策していないと推測する。したがって、上野地区の総入込数に対する上野公園の入場者数割合は、 $100\% - 9.2\% - (24.6\% \times 43.4\%) = 80.2\%$ である。

来訪者全体に占める台東区民以外の割合は、広小路口側の回答に対するウェイト（3.3 倍）付加後 98.9% であった。

上野地区年間入込客数；

1,228 万 6,273 人（上野公園方面の年間歩行者交通量）+ 99 万 9,457 人（上野公園恩賜駐車場を経由した入場者数）= ①（上野公園の総入込数）

① ÷ 0.802（上野地区の総入込数に占める上野公園の入場者数割合）× 0.989（台東区民以外の来訪者比率）= 1,638 万 3,524 人

② 浅草地区

浅草地区については、雷門、新仲見世入口、つくばエクスプレス（TX）浅草駅周辺、二天門前の計4箇所、実施した歩行者カウント調査結果をもとに、年間総入込数を推計する。

「水上バス」は、日の出桟橋、お台場から浅草が終着地点で、旅客船としての特性から乗船客数は正確である。その「水上バス」の下船人数（乗船者数）と、浅草寺方面の歩行者交通量の相関を求め、歩行者交通量を推計する単純回帰モデルにて、浅草寺方面の年間歩行者交通量を推計する。

$$31.925 \text{ (回帰モデルより)} \times 501,615 \text{ 人 (水上バス年間乗船者数)} + 2882.4 \\ = 1,601 \text{ 万 } 1,694 \text{ 人}$$

次に、浅草地区の総入込数に対する浅草寺の入場者数割合について、来訪者調査結果を用いて推計する。さらに文化・観光施設の入場に加えて、「寺社参拝」および「散策」の実施率を推計した。観光施設への入場、寺社参拝、散策のいずれも実施しない来訪者は5.0%であることから、浅草地区の総入込数に対する浅草寺への入場者数割合は95.0%と推測する。

加えて、来訪者全体に占める台東区民以外の割合は、97.8%である。

浅草地区年間入込客数：

$$1,601 \text{ 万 } 1,694 \text{ 人 (浅草寺方面の年間歩行者交通量)} \div 0.950 \text{ (浅草地区の総入込数に占める浅草寺の入場者数割合)} \times 0.978 \text{ (台東区民以外の来訪者比率)} = 1,648 \text{ 万 } 3,617 \text{ 人}$$

③年間入込客数から年間入込観光客

観光目的として捉えられる行動の実施率について、観光の定義は、観光施設への入場をした来訪者、または（かつ）、「意図ある消費行動」（自分で「行きたいと思った店」で「買いたい（飲食したい）もの」を購入した）を実施した来訪者、または（かつ）、浅草地区に限り、寺社参拝を行った来訪者としている。

以上の要件に該当する割合（実施率）を示したのが表4.16である。上野地区では年間総入込数の**85.9%**、浅草地区では年間総入込数の**94.2%**が該当すると推計し、両地区の平常時における年間観光客数を推計した。本調査では平成20年度調査と整合性を図り、③歩行者交通量（カウント調査）に基づく推計数字を採用する。

	年間総入込数(推計)		総入込数に対する 観光実施人数の比率	
	上野地区	浅草地区	上野地区 85.9%	浅草地区 94.2%
①文化・観光施設の年間入場者数に基づく推計	12,368,181	-	10,624,267	-
②鉄道駅における年間降客数に基づく推計	13,033,621	17,148,362	11,195,880	16,153,757
③歩行者交通量(カウント調査)に基づく推計	16,383,524	16,483,617	14,073,447	15,527,567

2. イベント入場者数の集計

平成 22 年（1 月～12 月）に開催されたイベントの入場者数について、主催者発表に基づき整理した（表 4.17）。*印のイベントは、入場者数が非公表であるが、合計には含めている。

表 4.17 イベント入場者数（平成 22 年）

	イベント名	平成22年
上野	入谷朝顔まつり	300,000
	谷中まつり	60,000
	冬ぼたん祭り	*
	ぼたん祭り	*
	上野夏祭りパレード	120,000
	うへの桜まつり	1,608,042
	上野地区小計	2,446,416
浅草	初詣三ヶ日（浅草寺）	2,690,000
	*江戸流しびな	*
	桜橋花祭り	131,500
	浅草流鏝馬	23,000
	泣き相撲	1,500
	三社祭	1,270,000
	*隅田公園桜祭り	*
	下町七夕まつり	370,000
	隅田川花火大会	952,000
	浅草サンパカーニバル	500,000
	東京時代まつり	410,000
	*靴のめぐみ祭り	*
	*はきだおれ市	*
	*浅草菊花展	*
	*浅草寺ほおづき市	*
	*酉の市	*
	浅草今昔展	実施しない
	奥山風景	実施しない
	にぎわいウオーキング	実施しない
	絵馬展（浅草寺）	実施しない
	したまちコメディ映画祭	90,257
	したまち演劇祭	23,678
	羽子板市	300,000
浅草地区小計	9,261,935	

地区毎、イベント来場者数の経年比較

	平成20年度	平成22年度	増減	事由
上野地区	2,330,259	2,446,416	116,157	微増
浅草地区	13,214,117	9,261,935	-3,952,182	今昔展、奥山風景で281万人減。
合計	15,544,376	11,708,351	-3,836,025	

尚、平常時の観光客数との重複カウントがあり得る、計測方法は未統一である。

3. 上野・浅草各地区における来訪経験

(1) 上野地区

来訪者調査の結果、上野地区では、初回の来訪者が全体の1割程度であり、4人に1人が10回以上の来訪頻度であった（図1）。

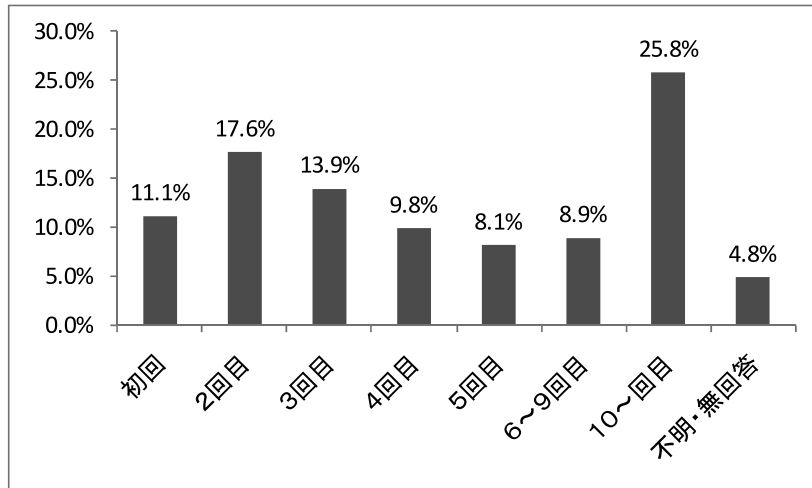


図1 上野地区来訪者の来訪経験

(2) 浅草地区

来訪者調査の結果、浅草地区では、初回の来訪者が全体の4割強であった（図2）。

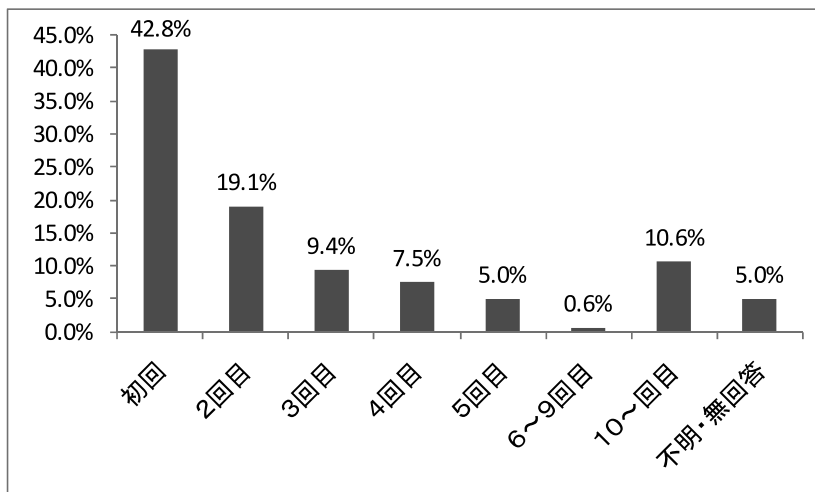


図2 浅草地区来訪者の来訪経験

4. 宿泊観光客数の推計

平成22年度の調査より、調査対象を「台東区ホテル旅館協会加盟員」に加え、複数の宿泊予約代行サイトに掲載登録している協会非加盟の宿泊施設や、城北旅館組合でかつ台東区内の一部施設に調査協力を頂き調査範囲を拡大しました。したがってデータの活用の際や、経年比較する場合等に単純比較することはできませんのでご注意ください。

表 4.18 平成22年(1~12月)宿泊客数(上野地区)

宿泊施設名		収容人数 推定	宿泊者数		宿泊者数 合計	回答率	外国人 宿泊割合
			日本人	外国人			
上野地区	台東区ホテル旅館協会加盟店	5,139	187,525	65,592	815,070	74.1%	25.2%
	ホテルセレッソ						
	水月ホテル臨外荘						
	きぬやホテル						
	ホテル観月荘						
	上野ファーストシティホテル						
	ビジネスホテル福寿						
	ホテル丸谷						
	ホテル松本						
	ホテル福屋						
	ホテルニューウエノ						
	ホテルアスティル上野						
	ツーリストホテル						
	上野東金屋ホテル						
	ビジネスホテル山百合						
	ビジネスホテルやなぎや						
	上野ターミナルホテル						
	NEW伊豆ホテル						
	ホテルニュー東北						
	チサンホテル上野						
	入谷アーバンホテル						
	ホテルパークサイド						
	アネックス勝太郎旅館						
	桜旅館						
	澤の屋旅館						
	山中旅館						
	旅館勝太郎						
	小松屋旅館						
きぬや本館							
きぬやホテル							
ホテル小松							
ツクバホテル							
非加盟店	411,379	130,572					
三井ガーデンホテル上野							
ココ・グラン上野不忍							
Cube Hotel Ueno Express							
ホテルレインボー							
ホテルサードニックス上野							
ウィークリーマンション東上野							
スーパーホテル上野・御徒町							
ヴィラフォンテーヌ上野							
サットンブレイスホテル上野							
ホテルニューグリーン御徒町							
ホテルパインヒル上野							
入谷ステーションホテル							
ホテルリブマックス東上野							
ホテル朱鷺							
ホテルサンターガス上野店							
御徒町ステーションホテル							
オークホテル							
ホテルシャーウッド							
カンデオホテルズ上野公園							
ホテルブーゲンビリア三ノ輪							
スーパーホテルJR上野入谷口							
ニューパークホテル							

表 4.18 平成 22 年（1～12 月）宿泊客数（浅草地区）

宿泊施設名		収容人数 推定	宿泊者数		宿泊者数 外国人	宿泊者数 合計	回答率	外国人 宿泊割合	
浅草地区	台東区ホテル旅館協会 加盟店	3,471	402,087	498,029	102,001	631,284	67.5%	21.1%	
									オークホテル
									スカイコート浅草
									テサンイン浅草
									ツクバホテル
									ドーマーイン浅草
									ホテルカワセ
									ホテルサンルート浅草
									ホテルニュー魚眼荘
									ホテルBWイン浅草
									ホテルミュー
									ホテルユニゾ浅草
									ホテル衣
									ホテル浅草三河屋
									ホテル栃木屋本店
									ホテル雷門
									ホテルニューアオキ
									喜久屋旅館
									助六の宿貞千代
									浅草セントラルホテル
									浅草ビスタホテル
									浅草ビューホテル
									浅草プラザホテル
									東横イン浅草千束
	栃木屋ホテル								
	旅館加茂川								
	旅館三河屋本店								
	旅館浅草指月								
	ベルモントホテル								
	ホテルマーキュリー								
	ホテル蔵前								
	ホテル柳橋								
非加盟店	95,942	31,254	ホテルニュー栃木屋						
			ニューホテルバンドン						
			一富士旅館						
			浅草旅館 東海荘						
			ホテル京阪浅草						
			ビジネスホテル旬の市						
			スマイルホテル浅草						
SOHO浅草									

※収容人数はシングル洋室（もしくは一人部屋和室）を1人、その他の客室を2人として計算してあるが無回答の施設は収容人員に含めていないので、区内宿泊施設、実収容人員より少ない。

※外国人宿泊者数割合は施設ごとに大きく異なり、数字は当該地区での平均である。

(1) 年間宿泊観光客数の推計フロー

年間宿泊観光客数の推計フローは下記の通りである（図 4.10）。

Step1：宿泊施設への宿泊者状況の調査を実施し、年間延べ宿泊数を集計・推計する。

Step2：観光庁『宿泊旅行統計調査』結果に基づき、宿泊者1人あたりの平均宿泊数を求め、Step1で得た延べ宿泊数を平均宿泊数で割ることで年間宿泊人数の実数を推計する。

Step3：本区の調査の結果をもとに、来訪者に占める上野・浅草地区の宿泊者割合を求め、上野・浅草地区を訪れていない年間宿泊人数を推計する。

Step4：観光目的として捉えられる行動の実施率を乗じて、年間宿泊観光客数を推計する。

(2) 年間延べ宿泊人数の集計

調査の対象とした宿泊施設を表 4.18 に示した。このうち、上野地区では 74.1%、浅草地区では 67.5%の回収率であった（回収率の計算は、各宿泊施設への調査に基づき推計した収容人数を基準に計算しており、調査に協力いただいた宿泊施設件数ではない）。

回収できた宿泊施設の年間延べ宿泊人数（日本人のみ；外国人については次章で集計・推計する）は、上野地区では 609,665[人泊]、浅草地区では 498,029[人泊]でこの集計結果に回収率を乗じて未回収宿泊施設を含めた、日本人年間延べ宿泊人数を推計する。

$$\text{※上野地区 } 609,665 \text{ [人泊]} \div 0.741 = 822,759 \text{ [人泊]}$$

$$\text{※浅草地区 } 498,029 \text{ [人泊]} \div 0.675 = 737,820 \text{ [人泊]}$$

(3) 年間宿泊人数（実人数）の推計

宿泊者 1 人あたりの平均宿泊数をから、年間宿泊人数の実人数を推計する。本調査では、宿泊者の平均宿泊数を求めるため、観光庁『宿泊旅行統計調査報告（平成 22 年 10～12 月）』を参考として、宿泊者一人あたりの平均宿泊数を求めた。日本人の平均宿泊数は 1.48 泊、外国人の平均宿泊数は 1.78 泊である。

日本人の年間宿泊人数（実人数）は、以下の通り推計される。

$$\text{※上野地区 } 822,759 \text{ [人泊]} \div 1.48 \text{ [泊]} = 555,918 \text{ [人]}$$

$$\text{※浅草地区 } 737,820 \text{ [人泊]} \div 1.48 \text{ [泊]} = 498,527 \text{ [人]}$$

(4) 年間宿泊人数に二重カウントを考慮する

上記の年間宿泊人数は、実人数の推計値であり、区内に宿泊し、上野・浅草地区を訪れた観光客も含まれている。したがって、「平常時の観光客数」と「二重カウント」を考慮する。上野地区の来訪者のなかで宿泊を伴う回答者の 27.7%（=5÷18）が台東区内を宿泊先として選択している（表 4-20 再掲）。同様に浅草地区は、来訪者のなかで宿泊を伴う回答者の 23.5%（=23÷98）が台東区内を宿泊先として選択している。

日本人の年間宿泊実人数（但し、観光目的以外の来訪目的を含む）。

$$\text{※上野地区 } 555,918 \text{ 人(宿泊者実数)} \times (1-0.277) = 40 \text{ 万 } 1,928 \text{ 人}$$

$$\text{※浅草地区 } 498,527 \text{ 人(宿泊者実数)} \times (1-0.235) = 38 \text{ 万 } 1,373 \text{ 人}$$

(5) 年間宿泊観光客数（日本人）の推計

さらに、平成 18 年に実施した「台東区観光客マーケット調査」では、宿泊客全体に占める観光客の割合を 33.54%として推計した。この割合で上野・浅草両地区における宿泊観光客数（日本人）を推計する。推計には観光目的で宿泊し、帰宅も含め台東区外へ向かう来訪者を含む。

日本人の年間宿泊観光客数

$$\text{※上野地区 } 40 \text{ 万 } 1,928 \text{ 人} \times 33.54\% = 134,806 \text{ 人}$$

$$\text{※浅草地区 } 38 \text{ 万 } 1,373 \text{ 人} \times 33.54\% = 127,912 \text{ 人}$$

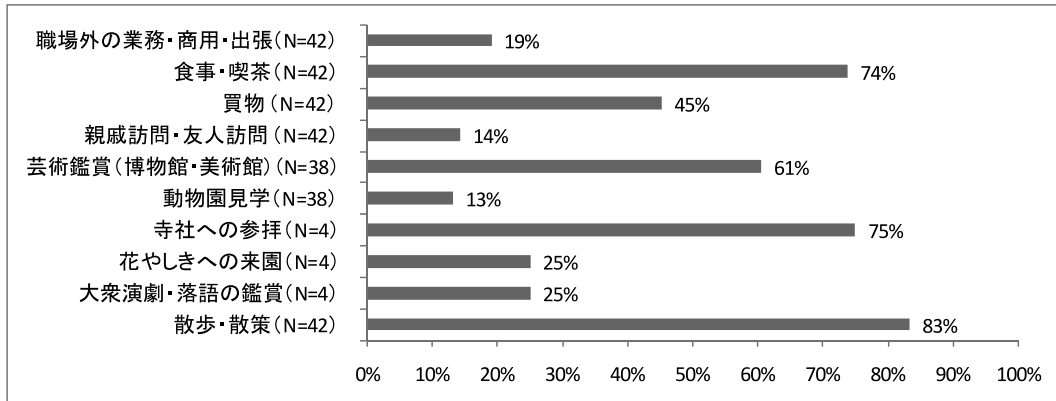
5. 訪日外国人観光客に関する分析

(1) 台東区内における外国人旅行者の行動

① 活動目的別実施率

外国人旅行者が上野・浅草地区で実際にとった行動について、活動目的別に実施率（各目的の有効回答者に占める「おこなった」と回答した者の割合）を示した（図 4.11）。実施率は、①散歩・散策（83%）、②寺社への参拝（75%）、③食事・喫茶（74%）、④芸術鑑賞（61%）。

図 4.11 外国人旅行者の活動実施率



(2) 外国人旅行者に占める観光者割合

① 観光目的・業務目的の旅行

外国人旅行者（上野・浅草地区の合算）の旅行目的が「観光目的」もしくは「業務目的」であるかを集計した。外国人旅行者（回答者）の 78.6% が「観光目的」の来訪である（主観的な観光意図を持っている）と回答した（業務目的以外に観光を行う「兼観光¹」も含む）。一方、観光目的として捉えられる行動の実施率も、本調査では同数であった。

区内での外国人旅行者が「観光」と捉えられる行動を実施している割合は 78.6% である。

② 宿泊を伴う年間外国人観光客数の推計

外国人の年間延べ宿泊数の推計した結果、宿泊者に占める外国人の割合は、前回（平成 20 年）調査よりも増加しており、上野地区は 25.2%（前回 21.1%）、浅草地区は 21.1%（前回 16.1%）である。外国人の年間宿泊者数から推計した、外国人の平均宿泊数は 1.78 泊である。以上の集計より、未回収の宿泊施設を含めた外国人の年間延べ宿泊数は、回収率に基づき以下の通り推計する。

A) 外国人の年間延べ宿泊数

上野地区 205,405 [人泊] ÷ 0.741 = 277,199 [人泊]

浅草地区 133,255 [人泊] ÷ 0.675 = 197,414 [人泊]

¹ 「兼観光」とは仕事兼観光で、旅行目的は業務と認識される場合が多い。仕事の合間（空白時間）に、本来の目的である業務以外に行う観光行動である。

B) 外国人の年間宿泊人数（実人数）は、以下の通り推計される。

上野地区 277,199 [人泊] ÷ 1.78 [泊] = 155,729 [人]

浅草地区 197,414 [人泊] ÷ 1.78 [泊] = 110,906 [人]

C) 外国人の宿泊を伴う年間観光客数

上野地区 15万5,729人 × 78.6% = 122,403人

浅草地区 11万0,906人 × 78.6% = 87,172人

③ 外国人観光客数の推計

カウント調査手法は、前回調査（平成20年）と同様であり、日本人をも含めた全数のカウントを行う傍ら、外国人を「中国」「韓国」「欧米」に分けてそれぞれ首都大学東京に在籍する留学生の目視による計測した。**結果は全数に占める外国人の割合は17.7%**となり、前回調査の15.2%と比較して上昇した。

平成22年度の調査では、台東区全区への外国人観光客推計のため「上野・浅草の年間歩行者交通量」に、上記の外国人歩行者比率を乗ずることによって、台東区全体の年間外国人総入込数を推計する。1,601万1,694人（浅草地区年間歩行者交通量）+1,228万6,273人（上野地区年間歩行者交通量）÷0.950（浅草地区の総入込数に占める浅草寺の入場者数割合）×0.177（外国人割合）≒527万2,358人、この年間外国人総入込数に、区内の宿泊を伴う外国人旅行者が「観光」と捉えられる行動を実施している割合（78.6%）を乗じ、台東区内の年間外国人観光客数を推計する。

台東区への年間外国人観光客数

$$5,272,358 \times 78.6\% \approx 4,144,073 \text{ 人}$$

④ 訪日外国人観光客訪問国割合の推計（参考値）

当該の調査項目は、社会環境によって大きく変動する項目である。調査は上野・浅草で4日間行い、約150の有効回答を得たが、この数は母数（来訪した外国人観光客数）と比較すると十分とは言えない。よって当該項目は参考値としてのみ本報告書に掲載する。

